

第2回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

日 時

令和元年 8月 19日 (月) 14:00～15:45

場 所

岡崎市役所東庁舎 4階第二来賓室

出席委員及び欠席委員

(出席委員)

NPO岡崎まち育てセンター・りた 事務局長

天野 裕 委員

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長

天野 吉伸 委員

岡崎商工会議所 会頭

大林 市郎 委員

東京大学 教授

小川 光 委員

国土審議会 会長

奥野 信宏 委員

愛知県西三河県民事務所 所長

加藤 千春 委員

岡崎市総代会連絡協議 会長

神尾 明幸 委員

岡崎信用金庫 理事

河原 一夫 委員

岡崎市農業委員会 会長

小久井 正秋 委員

連合愛知三河中地域協議会 副代表

小林 正幸 委員

岡崎市観光協会 会長

志賀 爲宏 委員

名古屋大学 教授

福和 信夫 委員

愛知産業大学 学長

堀越 哲美 委員

ミクスネットワーク(株) 常務取締役

森崎 健吾 委員

(欠席委員)

男女共同参画推進審議会 委員

鬼武 孝江 委員

岡崎市医師会 会長

小原 淳 委員

愛知学泉大学 学長

寺部 暁 委員

岡崎市教育委員

福應 謙一 委員

(事務局)

副市長

山本 公德

総合政策部 部長

永田 優

総合政策部企画課 課長

岡田 晃典

総合政策部企画課 副課長

山本 英樹

総合政策部企画課 係長 鈴木 昌幸
総合政策部企画課 主事 藤井 聖士

(傍聴者)

1名

<会議要旨>

1 議題

「次期総合計画について」

【各委員の主な意見】

- (資料 1/3) 都市将来像について、「三河を拓く」は「ひらく」というようにひらがなにした方がよいのではないかと。「拓く」だと開拓するような印象を受ける。
- (資料 3/3) 岡崎の誇りとする「歴史」「文化」という言葉が全く入っていないのは寂しい。意味合いとしては、基本指針の「(3) まちへの誇りが育まれていく社会づくり」に含まれていると察するが、言葉としても入れた方がよいのではないかと。
- (資料 3/3) 分野別指針(4)(5)については、ユニバーサルデザインでまちを考えていこうという意味だと考える。このような言葉を入れることで将来を見据えたより良い指針になるのではないかと。
- 拓くは漢字で良いと思われる。ひらがなだと非常に端的なものに感じられてしまう。新しいことを行うという意味では、「拓く」という感じで正しいのではないだろうか。
- 将来都市像の「一歩先の暮らし」というイメージは、定住人口の増加を目指すうえで良いキーワードである。一方で、一歩先の暮らしとは何を指すのかが重要になる。一見すると、AIや自動運転など、先進的なテクノロジーを導入した暮らしが実現するような印象を受けるが、ここでは子育てや通勤問題など、全国の都市が共通して抱える社会問題を一歩先に解決できるという意味もあるだろう。両方の側面があるのであれば、それらが感じられるような文言を入れた方がよい。
- 総合政策指針の(4)「多様な主体が協働・活躍できる社会づくり」が入っている点からも、市民のための岡崎市であることがよくわかる。また、全体として新しいものを取り入れていくという姿勢も良くわかり、期待できる指針である。
- 分野別指針(1)(2)のタイトルと内容が類似している。(1)は、まち・ひと・しごとについての内容であるならば、「都市基盤」という言葉は入れない方がよいのではないかと。また、(2)と(3)もよく似ている。「都市基盤」と「社会基盤」の定義を整理し、明確にしたほうがよい。
- 分野別指針(6)の「学びによる活躍」という表現は難しいように感じる。内容も必ず

しも学びによる活躍ではない。あまり「誇り」という言葉を使いすぎるのも良くないが、使用する言葉については工夫の余地があるだろう。

- 分野別指針（7）は、「子どもや女性」とした方がよいのか、「あらゆる世代」にした方がよいのか検討が必要である。
- 分野別指針（8）は、科学・教育・研究等の要素を入れないと成長につながらないのではないか。今後、商業と観光という要素で著しい成長は見込まれないことも考えられる。
- コンパクトシティの表現としては、額田地区等の市民が中山間地の自然を守りつつ自律的に生活できるよう、配慮していることがわかるような記述にした方がよい。
- 岡崎における中心・郊外というだけでなく、西三河全域にとっての中心・郊外という表現をしておくことで、岡崎は西三河の発展も考えながら中心となって頑張っていくということが言えるだろう。西三河全体のビジョンづくりに対して貢献するようなメッセージがあるとよい。
- コンパクト化というと単に縮むだけというイメージをされがちだが、本来は今あるまちを大事にして、ネットワークを強化していくという意味がある。ネットワークを意識してコンパクト化することが伝わるような補足をしておくとうい。
- 分野別指針の（1）は社会インフラ、（2）は安全・安心、（3）は環境問題を指していると思われる。違いが分かるような表現にするとよいだろう。
- 説明文についても、30年後の都市像の実現に向けた今後10年間の指針であることがわかるような表現にした方がよい。
- これまでの議論では西三河の話が多く出てきたが、将来都市像を東三河を含めた「三河」とした理由はどのような意図か。

事務局回答

- 岡崎市は西三河と東三河の中間に位置しており、今後広域的な連携を図る中で三河全体として底上げをしていきたいという意図がある。
- 基本指針（4）と分野別指針（10）が連動していると思う。一般的に基本指針が大まかな内容、分野別指針が具体的な内容であると思うが、それが逆になっているように感じる。分野別指針には、広域的な共通課題の例示をするなど具体的な文言を追加しても良いのではないか。
- 将来都市像について、前回までの議論では「暮らし」が中心というイメージだった。今回「三河を拓く」が突然出てきたような印象を受けた。総合計画として三河地域をけん引していくというマクロな視点では有益な一方で、市民や町内などミクロな視点で見たときに、「三河を拓く」というイメージが難しいと思われる。暮らしという身近な視点で地域を広げていくことがわかるとよい。「三河を拓く」というのは、将来都市像ではなく基本指針の一つなのではないか。
- 中心部は具体的な課題や役割が出てきているのに対して、周辺部はあまり具体化され

ていない。地域循環共生圏の枠組みが書かれているが、岡崎市の特徴としては商工のみでなく、農林水があり、それぞれが相互に補完しあったり循環したりすることが重要で、またそれが地域の強靱化につながると思われる。循環型の将来像を作ることが都市の強靱化にもつながる。

- 分野別指針（7）について、「子どもが活躍する」というのは違和感がある。例えば、子どもが「のびのびと育つ」「いきいきと輝く」の方が適切だと思われる。また、（7）は、従来は弱者や社会を支える主体ではなかった人の活躍という意味なので、子どもに関しては（6）の方が関係が強いのではないか。
- 市内一般の人が見たときに、コンパクトシティの定義を知らない人は良くわからないと思われる。コンパクトシティが何を指しているかをどこかに記載されていると良い。
- 生活を良くすることが目的なのに、文言が多すぎて理解しづらい。目的のために何をするのかを書いてもらわないと分からない。

2 議題「岡崎市総合戦略の評価について」

【各委員の主な意見】

- 資料では観光入込客数が減少傾向にある。観光協会は昨年4月に社団法人化し、昨年は予算が6千万円増えているのだが、人が減っているのはどのような理由か。

事務局回答

- 理由として考えられるものの1つとして、前年は100周年事業などが開催されていたことが関係する。また、統計でとれる数字のみからの結果なので、あくまで参考として捉えていただきたい。
- 出会いの場の創出は良い取り組みであると感じる。これらの事業に参加した人が結果として結婚したかなどは把握しているのか。
- 厚生連が農協の組合員を対象に、集団人間ドックを行っている。市の方でも市民を特定健診につなげるような取組は重要だと思う。ぜひ推進してほしい。

事務局回答

- 結果の追跡はできていない。本事業の趣旨は、出会いの場を通してコミュニケーション能力等の向上を図り、今後につなげていってほしいというものである。
- どの分野でも人材不足は深刻。保育士・介護士などの確保に向けた取組は、一企業ではなく、地域全体でサポートができるような支援が重要であるので、行政にもぜひご協力いただきたい。

3 その他

【各委員の主な意見】

- 現在、日本の経済は地盤沈下しつつある。そのような中では、早く手をまわすことが重要である。総論も大切だが、具体的なアクションを早く起こさないとすべてが手遅れになる。その点を十分に自覚していただきたい。

以上